

# 第14回 市民公開講座開催のお知らせ

当院では様々な医学知識や当院での取り組みについて広く地域の方にお伝えするために毎年、市民公開講座を開催しています。14回目を迎える今年は副院長の傳田医師より「大人の発達障害」についてお話しさせていただきます。事前予約不要です。どなたでもご参加いただけますので、ご興味のある方はお気軽にお越しください。

お問い合わせ:011-561-0708  
(平松記念病院 地域連携室)

**大人の発達障害について**  
平松記念病院 副院長 傳田 健三

開催日 平成30年10月20日(土)  
時間 14:00~15:00(13:30開場)  
場所 札幌市中央区南22条西14丁目1-20  
平松記念病院 2階 新作業療法室



幌見峠ラベンダー

## 理念 適切な精神科医療・保健・福祉を目指し 次の二つの柱を基礎に据えます

- 1.精神障害者の医療および保護を行い自立のために、社会復帰および社会的経済活動への支援をします。
- 2.その障害の予防に取り組み、市民の精神保健の向上を目指し、地域に根ざした病院を目指します。

## 基本方針 理念を実現するために5つの基本方針を定めます

- 1.私たちは、人権を尊重し、信頼と満足感を持っていただけるように努めます。
- 2.私たちは、相手の身になって受容的態度をもって接するように努めます。
- 3.私たちは、自己研鑽に努め、情報を共有し、連携・協力し合うチーム医療を目指します。
- 4.私たちは、常に新しい医療・保健・福祉システムを提供できるように努めます。
- 5.私たちは、地域における自らの役割を認識し、地域に貢献します。

## 患者さんの権利と責務について

- 患者さんの権利**  
私達は、患者さんの以下の権利を遵守して日々の医療を行います。
- 1.安全で適切な医療を公平・平等に受ける権利
  - 2.個人として人格を尊重される権利
  - 3.治療、病状、検査などについて、十分な説明を受ける権利
  - 4.十分な説明や情報提供のもと、どのような医療を受けるかを選択する権利
  - 5.個人情報やプライバシーが守られる権利
  - 6.セカンドオピニオンを受ける権利
  - 7.精神保健福祉法を遵守した医療を受ける権利

- 患者さんの責務**
- 1.最善で適切な医療を受けるために、病状経過や過去の治療歴・アレルギー歴などの情報を提供する必要があります。
  - 2.治療効果をあげるために、医療関係者と共同して治療に取り組む必要があります。
  - 3.円滑な医療サービス体制を確保するために、病院や社会生活上のルールやマナーを遵守する必要があります。

## 「新しい精神医療・保健・福祉について」



平松記念病院理事長・院長 宗 代次

この10年間で精神医療は、驚くべき進歩をいたしました。平松記念病院は①精神科急性期治療病棟②精神療養病棟③外来④精神科リハビリテーション(デイケア・ナイトケア・ショートケア・作業療法・訪問看護)、そして⑤退院支援・在宅療養・福祉への移行支援・家族支援の5つのリング(右図参照)を展開して行く必要があると考えています。

少子高齢化社会と言われて久しい今日ですが、子供から高齢者まで、それぞれの生活のステージで抱えているころの悩みは多様であると同時に互いに重なる部分もあります。

すべての方々の病気や障害に対応することには難しさもありますが、地域のニーズに応えていくことが民間病院の理念でもあります。

昔の言葉「町医者」に込められてきた地域の方々に親しまれる病院、さらに新しい精神医療を提供出来るようスタッフ一同、力を合わせて努力していきます。



## 編集後記

広報誌第45号作成から、新しく広報委員となりました事務の竹井と申します。

当院待合室の椅子、テーブルが新しくなり、落ち着いた雰囲気になりました。患者様からも「雰囲気が変わったね」と話しかけられることが増えました。自分自身も新たな気持ちで、待合室にいらっしゃる患者様に目を向けて受付業務に取り組もうと思います。



広報委員 竹井 沙織

発行人:平松記念病院 広報委員会  
発行日:2018年9月発行

☎064-8536  
札幌市中央区南22条西14丁目1番20号  
ホームページ: <http://www.hiramatsu-mhp.or.jp>

お問い合わせ:  
E-mail:webmaster@hiramatsu-mhp.or.jp  
TEL:(011)561-0708 FAX:(011)552-5710

表紙写真提供: KAZUHITO MIKAMI

# 病 院 夏 祭 り

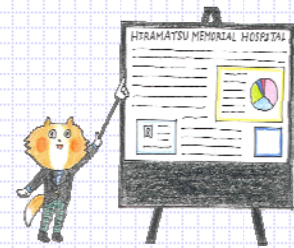


8月8日、当院の一大イベントである夏祭りが開催されました。当初晴れ予報だったものが前日に雨予報に変わり、運営スタッフも当日までひやひやとしていましたが、スタッフの願いもかない、予定通り開催することができました。今年は“風雪太鼓”の和太鼓演奏が見どころであり、様々な和太鼓を使って演奏してくれました。迫力ある和太鼓の音色、演出に観ている私たちも圧倒され、思わず聞き入ってしまう素敵な演奏でした。かき氷、メンチカツ、ミルクレープ、ガラポンなどの出店も大盛況で、地域の方々も沢山ご参加いただきました。運営スタッフの尽力により、無事に夏祭りを終えることができました。来年もまた、素敵な夏祭りとなるよう頑張っていきたいと思います。



## 平松記念病院『看護研究発表会・院内研究発表会』

各部署が1年を通して取り組んできた研究を発表する場として、2月に第14回看護研究発表会を、3月に第13回院内研究発表会を開催しました。多職種で研究を共有する場となり、発表後は様々な意見や質問が聞かれていました。看護部では毎年、看護研究発表の外部研修も継続して参加していることから、今後は学会などでの発表の方向性も考え、さらにレベルアップしていけたらと思います。平成29年度の演題は以下の通りです。



### 看護研究発表会

- 新館1棟 / 転倒・転落に対する看護師の意識調査
- 新館2棟 / 拘束帯装着による事故リスクの検証 職員によるリスク検証実験を行っての一考察
- 新館4棟 / 精神科看護師の患者への働きかけの困難さを明らかにする  
~看護チームとしての患者との関りを目指して~

### 院内研究発表会

- 看護部門（新館3棟） / 水分制限から申告飲水への試み（多飲水を繰り返す症例）
- リハビリ部門 / 認知機能に焦点を当てた介入「脳トレくらぶ」について再考するー現状と今後の課題ー
- 薬局 / 入院中の統合失調症患者の薬物療法における抗パーキンソン薬減量に関する検討

## 就任のごあいさつ

この度、平松記念病院に2名の医師が新たに着任いたしました。各医師からの御挨拶文を掲載しましたのでご覧ください。



平松記念病院 副院長  
傳田 健三医師

本年、3月26日付けをもちまして平松記念病院の副院長として着任いたしました傳田健三（でんだけんぞう）と申します。1981年に北大卒業後、いくつかの研修病院を経たのち北大精神科および北大保健科学研究院に約30年間勤務しておりました。専門は臨床精神医学および児童青年精神医学です。

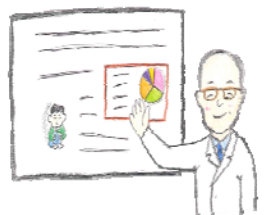
北海道大学では、おもに「児童・青年期の気分障害（うつ病・躁うつ病）の臨床研究」「発達障害（自閉スペクトラム症・注意欠如多動症など）の臨床研究」「摂食障害の臨床研究」「精神障害者に対する認知リハビリテーションの臨床研究」「子どもの自殺予防の実践的研究」などの臨床と研究を行ってきました。いわば、「認知」と「発達」をキーワードとして臨床実践を行ってきたと言えるかもしれません。

ここで「認知」と「発達」について説明します。一般に「ものの見方や考え方」や「現実の受け取り方」を「認知」と呼びます。認知症の認知とは少し意味合いが異なります。精神障害をもつ方々は、この「認知」がやや歪んでいたり、極端になっていたり、柔軟さを失ったりしています。精神療法や薬物療法、あるいは認知リハビリテーションによって「認知」のあり方を変えて、思考や感情、あるいは行動の障害を改善することができれば素晴らしいことと考えています。

また、「発達」という見方は、近年わが国の精神医学に新しい視点をもたらしました。「発達障害」、あるいはアスペルガー症候群やADHDという用語は今では誰でも目にするようになったことと思います。しかし、一般の精神科病院で発達障害をもつ方々を正確に診断し、十分な治療をしていくことについては、まだ難しい問題が山積しています。

子どもの発達障害臨床では、現在発達の途上にある子どもの10年後、20年後を意識しながら、今ここでしなければならぬことは何か、可能な援助や介入は何かを考えて治療していく必要があります。逆に、青年期・成人期の方と面接する時には、この人はこれまでどんな発達を遂げ、何が発達を妨げたのか、どんな苦難を乗り越えて今ここにいるのか、現在できる可能な援助とは何かを考えながら支援していく必要があると考えています。

今後は、皆様方と協力しながら、子どもから大人までの幅広い臨床に努力していく所存です。何卒、ご支援、ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。



平松記念病院 副診療部長  
佐川 洋平医師

初めまして、今年の5月から平松記念病院に精神科医師として勤務している 佐川洋平と申します。札幌の出身で高校卒業後約20年間秋田県に在住しておりましたが、このたび故郷の札幌に移住して参りました。趣味は小学校の頃から始めたバレーボールを中学、高校、大学、社会人と続けておりました。ポジションは主にセッターでした。札幌に来てからはバレーボールをする機会が無くなってしまいましたが、体を動かすことが好きなので他のスポーツや登山などにも挑戦してみたいと思っています。また食べることが大好きで美味しいものを探しにたくさんのお店や各地を食べ歩いて回っています。

秋田県といってもあまりなじみがないと思いますのでせっかくのこの機会に紹介したいと思います。秋田県は北海道と同様自然が豊かで閑静な地域です。北欧やヨーロッパの田園を思わせるような北海道の風景とは少し違い、秋田県は田んぼなどの里山や萱葺き屋根の家屋などまるで日本昔話そのままの日本の原風景が残っています。食べ物はお米や日本酒をはじめ、きりたんぼ鍋や稲庭うどん、ハタハタという魚や比内地鶏などが有名で美味しいものがたくさんあります。ナマハゲや竿燈祭りという伝統行事もあります。また今年の高校野球、夏の甲子園での秋田代表金足農業高校の活躍はとて素晴らしいです。

そんなのどかで古き良き日本の風習や自然が残る秋田県ですが、近年は若者の流出が進み、超高齢化社会という意味では日本の最先端を独走しております。またがんや脳血管疾患の死亡率が高いなど多くの問題を抱えています。特に我々が携わる分野において最も取り組まなければならない課題は秋田県の自殺率が長年全国ワーストであるという現状でした。精神科医としては非常に不名誉な記録ではありますが、辛い現実と向き合い精神疾患の治療や自殺対策、うつ病や睡眠障害の地域の啓蒙活動などにあたってきました。

北海道もまたうつ病患者や自殺者数の多い地域です。これまでの経験を今度は故郷である北海道の地で役立てたいと思っております。また私の専門分野として睡眠障害、特に過眠症の検査や治療、またその原因を調べる基礎研究を行ってきました。こちらの病院でも武藤副院長にご指導いただきながら、睡眠障害の治療に貢献していきたいと思っております。不慣れな点が多くご迷惑をおかけすることもあると思っておりますが、少しずつ患者様や職員の皆様との信頼関係を築いていきたいと考えておりますのでよろしくお願い申し上げます。

